

宮ザキ園

調査団体名	宮ザキ園	団体代表者名	梅村篤志
設立年	1820年頃	対応してくれた人の名前	梅村篤志
団体URL	http://www.miyazakien.com/	調査員	今村 豊、唐澤晋平
活動拠点	愛知県岡崎石原町	レポート作成者	唐澤晋平
取材日	2014年11月17日		

活動内容

お茶の栽培(3ha)と、自社工場での加工、梱包、販売までを一貫して行っている。年間の生産量(製品の状態)は年にもよるが1600kg~2000kgくらい。地域に茶の生産者は50人くらいいて、委託加工や買取加工をしている。普段は家族5人で経営しているが、5月の連休明けくらいから夏までが茶の収穫期で、鮮度を失わないうちに一気に加工までするため寝る暇もないほど忙しい。1日1000kgの茶葉を順次加工し、製品としては200kgのものが出来る。その時期だけは地域の方にも手伝ってもらい、10人~15人くらいで作業している。お茶は全て有機無農薬栽培で、15年ほど前に県内で初めて有機のJAS認定を受けた。以前は農協に卸していたが、今は自社で産直や百貨店などに直接営業している。お茶にこだわる方が直接店に買いに来てくれる場合もある。

キャッチフレーズ

- ・自然のままに
- ・People make a juice, God make the tea 人々はジュースを作り、神がお茶を作る
工業製品とは違うので、同じものは作れない。一煎一煎の出会いを楽しんで欲しいという意味。

会のモットー(何を大切にしているか)

出来るだけ人の手をかけず、自然のままに仕立てていく。
お茶は収穫したものがそのまま加工されて口に入るので、農薬や化学肥料は使いたくない。肥料も最低限のものしか与えないようにしている。

設立から現在に至るまで変化したこと

おおよそ190年前に創業し、現在6代目。この地域は寒暖の差が激しく霧が良く出る自然環境でお茶の栽培に適しており、夏場は茶業、冬場は林業というスタイルが地域の生業となっていた。しかし昭和30年代に木材価格が下落し、林業が衰退したことでこの形態が崩れ、街に勤める人が増えて茶業も衰退していった。お茶の値段は下げ止まりの状態だが、ゆるやかに需要と供給が減ってきている。

連携している団体・専門家・自治体など

あいち三河農協、宮崎茶業組合、東海農政局、市役所、商工会など。
6次産業化に取り組んでいるということで、行政からイベント出展などにお声がかかることがある。

山村再生や、その担い手づくりに関わる具体的な活動(例:小仕事づくり、山村・森林資源活用など)

地域に若い人が戻ってくることができるように、お茶という地域資源を活かして雇用を創っていくことを目指している。以前勤めていた茶業試験場の上司と紅茶の研究をしており、当時は珍しかった国産紅茶と一緒に作り、宮ザキ園のオリジナル商品として「三河わ紅茶」を開発した。当初はインドやスリランカから講師を招き入れダージリンやウバのような高級紅茶を国産で作れないかと思って試行錯誤したが、残念ながらダージリンやウバはつくれない。しかし日本には四季がある。気候や風土などの条件も違う中で同じものを目指してもダージリンは作れないのだ。環境にあった収穫期や茶葉の発酵時間を調整し、日本の環境に合ったものにしようという方向性をシフトして、半発酵で日本人の口に合うような柔らかい味に仕上げた。

現在直面している課題

生産力不足。人手が足りない。収穫期に手伝いに来てくれるのも高齢者のみで、勤めている若い人はその時期だけ来てもらうということが出来ない。今年から青年就農の研修機関として認定を受け、研修生を受け入れると人件費の補助金が出るようになったので、担い手育成をしていきたい。

今後やってみたいこと

12月には紅茶の製造機械が納入される。地域の方には無料で貸し出して、オリジナルの紅茶を作り、訪れる人に地域を上げて紅茶でおもてなしをするという「紅茶街道」にしていきたい。
また、茶の実を絞った油の商品開発を計画している。茶の実油は食用や美容用などで高級油として販売されている。寒い時期に葉を摘む「秋冬番茶」というものがあり、これも商品にしてみたい。冬季の仕事になればと思う。さらにお茶の文化をアメリカやヨーロッパなど、海外に発信していくこともやっていきたい。

そのためにはどんな情報・人脈が必要か

県や市、農協、農政局と連携しながら販路開拓を進めていく必要がある。

チームオリジナルの質問

<質問内容>

梅村さんは現在35歳とのことであまり同世代が地域にいないと思うが、後を継いで地域に残ることに抵抗はなかった？

<答え>

同級生は12人いたが、今地元に残っているのは自分だけで寂しく思う。農業高校を出て、静岡で2年間茶業試験場に勤めて、そのまま後を継いだ。お茶を継ぐことが当然だと思っていた。これまで続けてきたものを守らなくてはという使命感をもっている。

その他、伝えたいこと

2013年5月にNPO法人インディアンサマーを設立し、現在理事長を務めている。もともと額田のくらがり溪谷で音楽イベントを主宰していたNukata Sound Projectのメンバーが中心になって設立し、現在の会員は20名程度。

活動としては、サイクリングの楽しさを発信し観光地の活性化につなげる取り組みや、障がい者のために脳の活性化を促す音楽トランポリン療法イベントの開催、上記した三河紅茶街道の取り組みなど、地域活性化に想いのある有志が様々なプロジェクトを展開している。

団体名である「インディアンサマー」は、日本語で小春日和。冬に時々温かい日があることをアメリカでそのように呼ぶことにちなんでいて、地域経済を暖めていきたいという思いを込めている。

写真



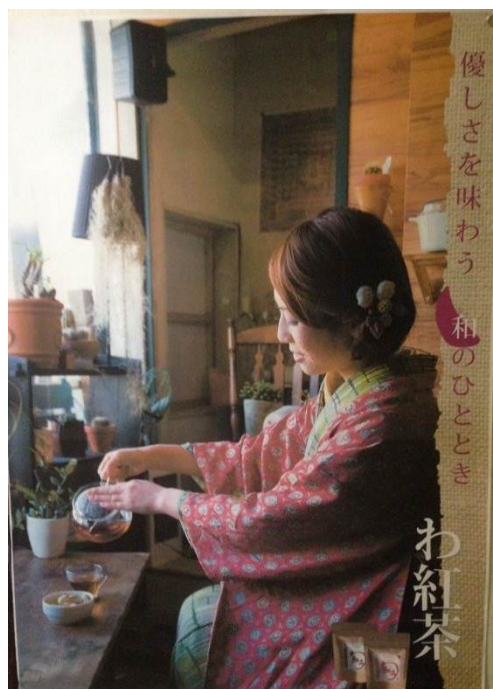
宮ザキ園外観



商品のラインナップ。贈答用のパッケージもある。



茶畑の様子と梅村さん(右側)



わ紅茶のポスター。
モデルは梅村さんの奥さん。